

## 東濃学術研修会 講演抄録

講師：横田 徹(岐阜県歯科技工士会会員)

演題：「DX化に伴うワークフローの変化」

内容：昨今、歯科分野においても業務を効率的に行うことを目的としてDX化が急速な広がりを見せている。技工サイドでは、ワックスアップがCADデザインに置換されつつあり、ミリングマシン、3Dプリンターによって補綴物が切削、造形されることも当たり前となってきた。またクリニックでもCBCT、口腔内スキャナーなど、従来の資料採得がデジタルデータに代替されたことで歯科治療の形が大きく変わりつつあり、デジタルが欠かせない時代に突入しているのは言うまでもない。

歯科におけるデジタル化は、時間短縮、業務効率化のみならず、従来法では出来なかったデータの重ね合わせによる診査・診断・治療計画の立案に大きく寄与し、治療の質の向上を期待できる。そうした中で当院では、単独歯科補綴治療から、全顎的補綴治療に至るまで、さまざまなデジタルツールを活用し効率的かつ確実な治療ができるよう試行錯誤を行ってきた。

そこで今回は、当院でデジタルツールを駆使して行っている治療の診査・診断から治療計画立案、補綴物製作について、従来のワークフローからの変遷を交えて報告する。

講師：福井健太(岐阜県歯科技工士会会員)

演題：「デジタルワークフローの臨床」

内容：デジタル歯科技工が増え、更なる需要拡大・発展が予想されるCAD/CAMですが、皆様はまだ手探りの取り組みが多くないですか？私もその一人であり、学校を卒業してから現在に至るまで情報収集を敏感に取り組んでいます。

テンポラリークラウン、モノリシックジルコニア、インプラント技工、保険適応のCAD/CAMクラウンなど、様々な補綴装置にCADデザインが必要とされています。私の臨床においては、情報を得ては試行錯誤を繰り返し、デジタル化のメリットを実感しています。

今回、私は日々の臨床にて得た「CADデザインのポイント」についてお話しをさせていただきます。デジタルツールは考え方や基礎の理解が重要だと思います。未だ手探りであるデジタルツールですが皆様の引き出しになれば幸いです。